

## 大王崎(波切港)・鳥羽港 航海記 Triton XⅢ



2008年8月9日～15日の1週間、  
“TRITON”グループ・メンバー7名で  
波切港へのクルーズを行ないました。

このあたりを航海した経験者は多  
いかと思いますが、航海記を掲載  
します。

この1週間は気象・海象に恵まれ、ほぼ晴天で快適な航海でした。

1日の航程は、およそ 50 浬(=95km 弱)、各航程間の所要時間は 9~10 時間です。ただ、往路は風が弱く、もっぱら機帆走、というよりもエンジンに頼ることが多かったと思います。ただ、潮がほぼつれ潮で6~7kt 程度の速度は維持していました。

航海は、葉山~下田港~ふくて福田(磐田市)漁港~波切港のコースの往復です。波切港から鳥羽港、的矢港へのショート・クルーズを含みます。

## 1.往路

8月9日 0600、6名乗組で葉山を出港、下田港を目指します。気温・湿度ともに高くあまり快適とはいえません。南風は弱く、セールは揚げたものの事実上機走に近い航海ですが、殆ど波はなく、穏やかです。5~5.5kt 程度。

0730 ケンケンの曳き釣りにシイラがかかりました。

0830 35° 06'161"N 139° 22'172E で無風となり、メイン・セールのみ揚げて機走。

1515 下田港防波堤通過。港口は比較的新しい防波堤ができていて少々狭く感じますが、内部は静穏です。

1530 稲生沢川脇の港北北西端にある下田ポートサービスバースに係留しました。(TEL. 0558-22-5511、e-mail:sbc@lilac.ocn.ne.jp、停泊料¥4,000.-) 所要時間約 9.50 Hours。

燃料の補給はポート・サービスに頼むと、GS からタンク・ローリーで届けてくれます。氷は物揚げ場の近くにある製氷会社から購入できるということでしたが、我々は時間が合わなかったせいか、店は閉っていました。

9 日夜、下田泊。(やまね旅館素泊り) 下田で1名加わり7名となります。

10日 0600 解纜。港内の係船岸壁に舳をとりコンビニ弁当で朝食。

0630 下田港出航。ふくて福田漁港を目指します。

0730 No.3 ジブ・セール・アップ。

0800 メンスル・アップ。

途中、適当な追い風が吹いた時間があったり一時スピネーカーを揚げたのですが、風が落ちたため、降ろしました。

駿河湾を約5時間で横断しました。御前崎灯台を航過後、遠州灘にかかります。遠州灘は、地図でみても判るとおり、海岸線が平板で景観はあまり面白味がありません。土地の人達は「海の砂漠」というそうです。

ケンケンで曳き釣りしていたところ、浜岡原発付近の海面でシイラその他、サバ、メジマグロなどが次々と獲れ、最後にはシイラはかかっても揚げずに放してしまいました。これらの魚は福田に入港後、船上宴会に際し、刺身バタ焼きなどにして食べました。

1650 福田漁港入港。舳をとる。所要時間 10.4Hours。

伏見旅館素泊り。6時宿主人の出迎えボルボにて宿へ向かった。

## 福田漁港

(静岡県磐田市福田町)

所在地は、N35° 40' E137° 54.2'

御前崎から伊良湖岬に至る沿岸は、あまり目立った港がなく、福田漁港はプレ

ジャー・ボートには、かっこの寄港地です。  
写真は港外からの景色です。



福田漁港は、本来、太田川河口に造られた河川港だそうですが、1998年に旧港東側に新港を建設したものだそうで太田川から完全に切離されています。本港側は、中は広く、避難港としての指定もある良港で立派な建屋がありますが、港内には漁船の姿はなく、漁師や管理者の姿も見えず、突堤には釣人が大勢いて、なんとも不思議な光景です。漁船溜りは港西側に曲り込んだ歩いて5分ほどの太田川の支流にあります。漁協事務所も、魚市場もこちら側にあります。

この漁船は専らシラス漁業に従事しているそうで、港外では2隻で網を引く姿が見られます。新港の物揚げ場はシラスの水揚げ時に使うという話でしたが、水揚げの様子は判りません。

漁港のすぐ西側(漁船溜り手前)は避難船舶用の泊地だそうですが、漁港の物揚場正面左側隅あたりは閑散としていますから、ふつうは舳いをとっても苦情を云われることはなさそうです。(我々もそうしました。)



下の写真は、更に港口に接近した写真です。



プレジャーボート・小型船港湾案内 H-801」94 頁参照。

Google マップで、「静岡県磐田市福田町」で検索するとこの周辺の地図がでてきます。

物揚場はありますが、水も氷も補給できません。水道の配管はありますが、元栓が閉じられています。製氷所も建屋はありますが、クローズされています。そういう点で不便な港です。

駐車場は広く、港の最東端の建屋にシャワーの設備もありますが、トイレはこのシャワーに附属するものしかありません。商店などもないので、車で5～10分ほどの町に行く途中のコンビニなどで調達するほかありません。

次頁は港口からのもので、正面の白い大きな建屋が新港物揚場です。



静岡県建設部港湾局漁港整備室の HP  
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-430/hukude.htm>  
で福田港の航空写真が見られます。

2006 年まで漁船溜り近くに国民宿舎「遠州福田荘」という宿泊設備がありまし

たが、現在は閉鎖されています。

11 日 0600 港内船上でコンビニ弁当で朝食。  
0620 福田漁港出航。なぎり波切港(大王崎)に向います。  
0700 セール・アップ。  
1545 波切港入港。  
所要時間 9.3Hours。



波切港入り口

#### 波切漁港(大王崎)

所在地は、N34° 17' E136° 54'

港の全景は航空写真で見られます。

<http://www.pref.mie.jp/SUIKIBAN/HP/miegyoko/nakiri/nakiri.htm>



遠州灘を越え、更に伊勢湾口を過ぎると大王崎です。波切港はかつて九鬼水軍の拠点があったそうで、奥が深く天然の良港です。外からは見えないため、船隠しの適地だったと思われます。現在の大王崎灯台の場所に九鬼氏の居城があったそうです。



港口は北東方向に開いています。

詳しくは、「プレジャーボート・小型船港湾案内 本州南岸H-801」  
140 頁参照。

大王崎は熊野灘と遠州灘の分界とされています。暗礁・岩礁が多く「伊勢の神崎、國崎の鎧、波切大王なけりゃよい」と唄われた航海の難所でした。現在は大王崎灯台という航路標識があるほか、入口近くの北側に比較的高層のリゾート・マンション風ビルがあるので入港時のいい物標になり、それほど危険はありません。

港内は広く、外来艇は、物揚場近くの岸壁に係留できます。寄港時は8月中旬でしたが、外来艇は他に1隻のみで空いていました。

ここは、概して素朴で人柄もよく、われわれよそ者にも親切な場所です。

水は物揚場の水道が使えるし、氷は物揚場に附属した製氷所でコイン式販売機から24時間購入できます。¥500.- / 25kg(但し、500円コインのみ可)かなりの量が太いホースから一時に落ちてきますから大きな容器を用意する必要があります。

燃料もGSからタンク・ロリーで運んでくれます。

港最奥部近くに民宿大王荘(TEL.0599-73-1234)があります。更に少し港沿いの奥まった処に干物屋があり比較的安価で干物を購入できます

11日大王町波切民宿「大王荘」泊。はじめて宿舎内で夕食を摂りました。

**12日朝**、0600 鳥羽港を海から観光に向います。

所要時間 7.8Hours。

メンバー1名、ここで別予定があり、下船。6名となりました。

## 鳥羽港

所在地は、N34°29.8' E137°50.2'

鳥羽港への航路には干出岩、暗岩などの障害物が多く、水路が入り組んでいきますので注意して航行する必要があります。波切港から鳥羽港に入るには鳥羽市と萱島の間に加布良古水道から入ることになりますが、見通しがきかない場所が多く行止りかと思うと水路が開けている場所が至るところにあります。

鳥羽港は、有名な観光地ですが、船で行くと係留場所が殆どなく、「小型船入港案内」には「浜辺浦西方の池の浦は小型船避泊地で…」とありますが、殆どが商用艇・業務艇の泊地となっているようで外来艇の停泊する余地はなさそうです。ホテルなどのプライベート棧橋はありますが、ホテル利用者でない

停泊は無理でしょう。

## 的矢港

N34° 22.1' E136° 53'

波切港への帰路、的矢港内を機走で1時間巡回、港内の調査をしました。

この港は鳥羽市と志摩市の間にあるリアス式海岸にある港です。

港内は入り組んでいて深く広く天然の良港です。

季節により、牡蠣筏、真珠筏などが設置されるようですが、内部を廻ると泊地として向いていそうな処があちこちにあります。

停泊していないので、ゲスト・バースがあるかどうか不明ですが、港内北部(鳥羽市千賀町釜ヶ谷)には鳥羽マリーナがある他、港内の渡鹿野島東南部にも港がありプレジャーボートが係留されています 12 日夜、前日に続き大王町波切民宿「大王荘」泊。

## 2. 帰路

13 日出航前に勤務の関係などで2名下船、帰路は4名の航海となります。出航前に波切港で水・氷を補給。

### 13 日 0600 波切港出港。

福田に向います。伊勢湾口は海から見ると実際以上に広く見えますが知らず知らずのうちに伊良湖岬を越えています。

伊勢湾口から福田までの航海は、「海の砂漠」にふさわしく平板で、少々退屈します。

航海中、食事の支度をしているときに、飯炊きを済ませおかず作りにかかっていた最中、プロパンボンベが空になり、やむを得ずカセットコンロでなんとかごまかし、おかずを作りました。

福田港入港後、旅館の主人に頼んで数軒のガス屋に電話して充填してくれる店を探してもらっても、2kgの小型ボンベに充填することは法令で禁じられているとか、空のボンベはあるが充填できないなどといわれ、見つからず諦めました。旅先ではなにが起るか判りません。

福田漁港 1430 入港。往路と同じく伏見旅館に素泊り。

### 14 日 0600 福田出港。

港へ向かう途中のコンビニで食事を購入、下田までの朝食と昼食はこれで済ませることにしました。

下田港に向います。再び、遠州灘の沿岸を航行しますが、この沿岸近くは水深計によると比較的海底が浅く、そのせいか波が悪い場所です。

また、南からの潮流があつてうっかりしていると船が次第に岸に寄せられる傾向があります。「灘」という名のいわれもそのあたりにあるのかもしれませんが。なるべく水深の深い海域を航行するのが賢明かもしれません。

また、太平洋に面した広い海面ですが、プレジャー・ボートの姿は稀です。往路は、殆どエンジンを使っていましたが、帰路は帆走できる風が吹きエンジンを止めてセーリングを楽しむことができました。潮流もつれ潮でスピード・メーターとGPSの速度を比較すると、対地速度のほうが常に0.5~1.5kt程度プラスとなっていました。最高8kt近く出ていると思います。

駿河湾を航過して石廊崎を越えた頃から次第に風が強まり、風速22~25kt程度となり、No.3ジブに2ポイント・リーフくらいで帆走しました。

下田港入口付近の海面は暗岩が多く危険なので神子元島を迂回して下田に

向います。下田港は、東寄りのアプローチは割合楽ですが、南からの入港は慣れていないと港口を見つけ難いように思います。

1500 下田港入港。

着棧直後、下田ボート・サービスでガスの充填ができる店を訊いたところ、充填してくれる店があるとのことで早速充填を依頼しました。ガス屋はすぐに来てくれて、暫くしたら届けてくれました。ほっと一安心。

この日は、下田のお祭りの初日で町内の太鼓台の巡行と花火の打上げを見ることができました。丁度、泊地の対岸で花火を打上げるので楽しめました。



太鼓台は、全部で16の町内から参加があるそうで、集合場所で各太鼓台のその年の代表者が順次決意表明をやるのが拡声器で聞こえ、郷土色が感じられます。お盆で料理が作れないと言われ旅館は素泊まり、ただし外へ行っても観光客があふれていて席が取れず、結局スーパーの惣菜を買って、船に戻って酒盛りになりました。下田花火が目の前のポンツーンで結局最高の宴となりました。花火終了と共に旅館に帰館。この航海にしてはちょっと遅く10時就寝

下田泊。旅館素泊り。

### 15日 0600 下田港出港

1520 葉山帰着

この日、海は穏やかで、SEの順風20ktに恵まれ艇は6~8ktで快走します。このたびの航海では、機走、または機帆走が多かったのですが、前日午後とこの日はエンジンを止めて帆走を楽しむことができました。

プロパンは満タンで安心して船上でご飯を炊き、オムレツで朝食、更に余ったご飯で握り飯を作って昼食としました。

### 3.クルーズを終えて

このクルーズでは、全行程の寄港地で陸上の旅館・民宿に宿泊し、入浴の上、エアコンの効いた部屋で、乾いた夜具で眠ることができたため、疲労が蓄積せず、翌朝にはリフレッシュして航海を続けることができました。少々贅沢かもしれませんが、このスタイルなら素泊りでも肉体的には楽です。食事は、船内で炊飯してもいいし、コンビニ弁当でもなんとかなります。実際、今回のクルージングでは、船内で数回飯を炊き、握り飯も作りました。簡単な食事でも、船上で食べると結構食べられるものです。



航海上は、オート・ヘルムと、ディスプレイの大きな GPS が必須だと思います。オート・ヘルムは万能ではありませんが、ロング・クルーズでは行程のロスを最小にします。

当然のことながら、最新の海図と港湾案内は必須です。入り組んで暗岩の多い海域では、GPS のみに頼ることは危険です。

夏場のクルーズでは、水、氷などは絶対に必要なので、燃料と共にこうしたものの補給をどうするか予め考えておくことが必要です。

最後に事前情報の提供と大王崎近辺のデータ入りGPSを貸与いただいたアルバトロスの皆様に厚く御礼申し上げます。

以上